

H. I. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

単位交換制度があり、また休学する必要もなかったので協定留学を目指しました。当時は、休学することに大変抵抗があり、4 年で卒業することを望んでいました。国際課の方々からの手厚いサポートをして頂けることも大きな理由の 1 つでした。初めての留学だったので、自分自身で留学すべての計画を立てることは難しいと思いました。なので、国際課の方々からサポートを受けられる協定留学に申し込もうと決めました。大学に入学してからぼんやりと、留学したいなと思い始めていました。そして、留学を本格的に意識しだした時期は 1 年の夏頃でした。英語力に自信をつけたくて、夏に行われた TOEFL CAMP に参加しました。その際に、他の熱心な学生の方々に会い、私も本格的に留学を目指そうと考え始めました。

② 留学を目指してから出願するまでの英語学習方法

TOEFL CAMP 後、最初は一体なにから始めたら良いのか分からず、戸惑っていました。そこで、留学を申し込むために最低限必要な IELTS を受けることを最初の目的にしました。まずは、IELTS の公式問題集を購入し、解いてみました。TOEFL CAMP で IELTS への取り組み方を学んだのですが、正直初めて IELTS を受ける者には問題は難しかったです。なので、Chat Room というネイティブの先生と 20 分間個人で、もしくは 40 分間グループで英会話をすることに参加するようになりました。個人では Writing の添削、Speaking の練習をしてもらいました。2 回目の IELTS を受験するまではグループの方には参加しませんでした。他には IELTS 対策講座にも参加しました。1 年の 11 月に初めて IELTS を受験しましたが、結果は合計 5.0 でした。個人的に 5.0 も取れてないだろうと思っていたので、安心しました。ですが、この点数では留学に申し込めないのもう一度 12 月に受験しました。その 1 か月の間で何とか点数を上げようと、さまざまなことに取り組みました。例えば、留学生歓迎会に参加し、アメリカ人の人と英語でメールのやり取りをしたり、他の留学生交流イベントに参加したりもしました。他にも、Listening の先生に英検の面接の練習も兼ねて Speaking の練習もして頂いていました。そして、結果は合計 6.0 でした。この結果を見た時は、努力は大切なんだと改めて感じ、この感情がその後の留學生活の糧となりました。

③ 留学決定からから出発までの準備期間

ビザの申請、パスポートの更新、予防接種、飛行機、ホテルの予約、大学とのコンタクトな

ど準備しておくことは沢山ありました。分からないことは、同じ大学に行っていた先輩に質問をさせてもらっていました。この準備は大切なので、できる限り早めの行動を心がけていました。この準備の中で気づいたこととしては、飛行機のチケット予約は往復ではなく、片道のみを予約した方が良かったと思いました。人それぞれかもしれませんが、私は往復で予約し、少し後悔しました。なぜなら、往復で予約すると必ず日本へのフライトのために予約した空港に戻って来なければいけないからです。その予約した空港が便利な空港（NYC など）なら良いと思いますが、なかなか便利な空港の近くに大学は無いかなと思います。日本帰国前にどこかへ旅行をしたいと考えている方は、往復のフライトを予約する前に考えてみて下さい。でも、片道の場合は帰りのチケットを取ることを忘れないでください。

勉強面での準備は、決定前と同様に Chat Room に参加し続けました。グループの方には参加したことが無かったので、挑戦してみました。一度、グループの会話についていけず、悔しい思いをしました。ですが、その悔しさの中で私はどのような対応、反応すれば良いのかを学ぶ良いきっかけになりました。留学前と後を比較するため 2 月に TOEIC を個人で受けました。TOEIC を受験することを目標に文法、Reading、Listening の勉強をしました。また、国際課主催の留学生交流会を通して、イベント企画も行いました。日本人 2 人で、留学生の方々と京都を観光するというイベントでした。今までに、何か企画することが無かったので戸惑いましたが、留学生との距離を縮める良いきっかけになると思います。この留学の準備全体を通して、英語で Listening をして Speaking をすることが苦手だったので、オンラインの週 1～2 回の英会話に通いました。色々なオンライン英会話の体験をしましたが、やはり毎日英語を聞くことが無かった私は、ネイティブの英語で耳を慣らそうと思いました。なので、留学する 8 月まで、ネイティブスピーカーの先生と約 4 か月英会話をしました。英会話の話をしましたが、英会話をすることが一番良く、強くお勧めする訳ではありません。なぜなら、事前に予約すれば、担任の先生方も必ず英語学習等のサポートをして頂けます。身近な人から頼ってみることも大切だと思います。

④ 現地到着後

現地到着後は、MBU の先生、もしくは生徒の方がボランティアで最寄りの空港まで迎えに来てくれます。事前に大学の先生から連絡が来るので、フライトの詳細を連絡しました。もし、空港ではなく、どこか最寄りの駅に着く場合も、事前連絡をすれば誰か助けてくれると思います。私の場合、小規模の Charlottesville 空港で現地の先生と合流しました。その空港から大学までは車で約 1 時間でした。

オリエンテーションは 1 週間ほどあります。留学生のサポートをしてくれる現地の学生の方々（アンバサダー）に会ったり、近くのダウンタウンに行くツアーに参加したりします。

このオリエンテーションで、現地の学生の方々と仲良くなったり、これから利用する大学の施設を見学したりできます。時差やフライトの疲れを少しずつ取りながら、1 週間大学生活へのスタート準備ができるかなと思います。

諸手続きとしては、先生方からサインをもらう書類や、きちんと大学に到着したかを国際課へメール送信がありました。また、**Health Form** など事前に準備していた書類を提出、また新たに向こうの大学に通うにあたって登録しなくてはいけないこともあります。ですが、1 週間のオリエンテーション等を通して、アンバサダーや先生方が丁寧に教えて下さるので、深く心配する必要はないと思います。

⑤ 語学研修期間

◆ 語学研修先の施設・環境について

◆ 授業内容、課題、試験

秋学期から留学を開始したので、語学学校には行っていませんでした。正規科目は留学した秋学期から履修していました。現地の学生の方々と取る正規科目以外に、秋学期では **ESL** (**English as a Second Language**) が必修だったため履修していました。このクラスでは、約 3、4 か月かけて、英語の文法、単語等を学びます。高校の英語の授業に似ているような気がします。私の受けた **ESL** のクラスは週 2 回のうち 1 回単語のテスト、単語のプリント穴埋めが宿題として出されていました。1 1 月頃に入った時、最後のエッセイに向けて準備することも宿題になりました。テストは 1 0 月、1 2 月にありました。単語、文法の復習をしていれば大丈夫だと思います。とても難しい授業ではありませんが、しっかりとひとつひとつの宿題をこなすと力がつくと感じました。

⑥ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学の施設は思っていたより綺麗でした。**YouTube** に食堂の紹介が載っているので、参考にされても良いと思います。今、共学校にするに向けて、設備を改善したり、ペンキの塗り替えが行われたりしているので、より綺麗になりつつあると思います。主にクラスで使う建物 (**Academic Building**) は図書館や食堂などと近くその点は便利でした。ですが、体育や芸術科目のクラスはそのメインの建物から歩いて 1 0 ～ 1 5 分ほどかかっていたので、少し不便な場所もありました。基本的には大学中心の建物だけを使うことが多かったです。大学の近くには、ダウンタウンがあります。そこには、食料屋さん、雑貨屋さん、レストラン、カフェがあります。もし、食堂のご飯に飽きた場合は、気分転換にレストランやカフェへ行くことをお勧めします。また、**Sun Trust** というアメリカの銀行もあるので、何か銀行関係で問題がある時はそこへ行くこともできます。1 5 分ほど歩くと **Food Lion** という大

きめのスーパーへも行くことができます。日用品、食料等を買うことができます。ですが、1 人で行ったり、夜に行ったりすることは避けた方が良いでしょう。もし、友人が車で送って行ってくれる場合は、大型のスーパーの Walmart へ行くことができます。

◆ 履修科目

秋学期から翌年の春学期までの 1 年間、正規科目を履修していました。秋学期、春学期の 2 回、履修登録をする期間があります。基本的に仮登録はコーディネーターの先生が個人面談をしてから、履修登録をしてくださいます。授業開始後の 1 週間以内は、好きなようにクラスを追加したり、落としたりできます。ですが、履修を変更する場合は必ず、コーディネーターの先生に連絡しなければいけません。また、I20 のビザの規則により、1 学期 12 クレジット以上習得しなければいけない規則があるので、注意した方が良いでしょう。秋学期には American Culture、ESL は必修科目として設けられています。American Culture は、留学生コーディネーターの先生が担当してくださっていました。クラス内では、大学の所在地である Virginia の歴史、アメリカの文化、大統領、人種差別等を学習しました。数回、ゲストスピーカーの方を交えて、お話を聞ける機会がありました。留学生のみのクラスなので、意見を述べやすい環境でした。テストはありませんでしたが、2 回ほど 2～3 枚のレポート提出がありました。このクラスでは、ゆっくりとアメリカの歴史について学ぶことができます。

また、Public Speaking は必修ではありませんが、取った方が良くいと大学からの書類に書かれていたので、取りました。クラスの中では、グループに分かれ、自分のスピーチの内容について発表し、他の生徒の方から質問をもらう所から始まりました。そして、スピーチに必要な資料を集め、原稿、パワーポイント等の準備をしていきました。最後に、現地学生を含む 15 人ほどのクラスで、1 人ずつ発表しました。教科書を読んで、その教科書から中間テスト、期末テストが出されました。実際に取ってみて、プレゼンの難しさを感じつつも、人前で話すことに自信ができました。

他のクラスは Asian Civilization、Horseback Riding を取っていました。Asian Civilizations では、中国、インド、日本の歴史を勉強しました。日本の歴史は約 2 クラスで、旧石器時代から明治時代までの説明を聞きました。正直、ほとんど日本の歴史の話は無く、中国、インドがメインです。その二国については、それぞれの歴史、文化、制度などを詳しく学ぶことができました。テストはありませんでしたが、週 2 回のクラスまでに 50～80 ページを読み、ほぼ毎週 1 ページほどの読書感想文提出、1 学期を通して 2～3 枚ほどのレポート提出、プレゼンが一度ありました。課題が多かったという印象でしたが、クラスの内容は面白いです。同じアジアの国に興味を持っている方にお勧めです。

Horseback Riding では実際に施設に行っていました。施設の方が学校まで迎えに来てくれ、馬のいる場所まで通っていました。クラスは1 学期で5 回しかありません。そして、追加費用として200 ドルかかります。ですが、1 人1 人の馬をもらい、馬との接し方も学べます。最初のクラスでは馬の装備の仕方、乗り方を室内で学びます。装備ができているか不安もありましたが、トレーナーの方が最後に点検してくださります。最終的には、馬に乗って、軽く走ることでできるようになります。最後に、軽いテストとレポート、毎回のクラスの感想を提出しなければいけませんが、この課題はそれほど難しくありませんでした。費用が割とかかるのですが、なかなかできる機会はないと思い履修してみました。この大学を選んだ1 つの理由だったので、取って満足しています。

春学期には本格的に現地の学生の方々と混じって、授業を受けていました。具体的には、History of Western Art II:Renaissance to Modern、Arts of Asia: India, China, Japan、Children's and Young Adult Literature、Silkscreen、Horseback Riding Intermediate、そして日本語クラスの TA をしていました。

最初の2 つの芸術歴史クラスは、先生が同じだったので、基本的な授業の進め方は全く同じでした。クラスの中で、先生が美術の作品を写真と共に説明してくれます。余裕があれば、クラスの前に教科書を読んで、予習をします。毎回予習していく必要はありませんでした。むしろ、ノートに取った授業内容の復習が大切なように思いました。定期的に、週2 回のペースで教科書からの小テストがあります。このテストは教科書を見ながら、好きな時に好きな場所で行えるので心配はしなくて大丈夫だと思います。ですが、中間、期末テストは作品名などを覚える必要があるので、しっかり勉強した方が良いです。このクラスはとにかく授業が楽しく、先生も優しいので、2 クラス取って良かったです。

Children's and Young Adult Literature のクラスでは、世界的に有名な児童書、ハリーポッター、チャーリーとチョコレート工場などを読みながら、主に内容の意図について学習します。おそらく、有名な文学ばかりを扱っているのですが、多少分からない内容や単語がクラスで取り上げられても推測しやすいと思います。クラス外では、学校の掲示板でのディベート、数回2～3 枚のレポート提出、プレゼン、事前学習（読書）が課題とされました。週3 回のクラスだったので、事前学習に追われました。履修科目登録時に分かるのですが、このクラスには W (Writing) の印があったので、ライティングがやはり多かったです。ですが、ライティングのスピードは早くなり、内容も改善出来ました。W があるクラスは、ライティングを伸ばしたい方にお勧めで、一学期に一クラス履修すると良いと思います。

Silkscreen はメッシュの生地にデザインを描き、特殊なインクを使い印刷する芸術クラスです。日本にいた時 Silkscreen を聞いたことが無かったので、受けてみようと思い取りま

した。美術専攻ではないので、クラスについていけるか不安でしたが、先生に確認したところ、初心者もできることかしらないと言われました。先生が優しいので、もし分からないところがあっても、丁寧に教えてくださいます。テストはありませんでしたが、最後に 1 つ作品を作り先生と面談をします。週 1 回で、1 クラス 3 時間程です。同志社女子大学では芸術科目が限られているので、興味のある方は是非考えてみてください。

Horseback Riding Intermediate のクラスは、秋学期の内容とほぼ変わらなかったです。ですが、秋学期で取った時に、馬に乗れることが楽しかったので再度履修しました。ジャンプの仕方を学べるかなと考えていたのですが、そこまでは習えませんでした。春学期は留学生 3 名のみの参加でした。なので、先生がクラスのことを忘れる時がありましたが、振り替えてもらえたので良かったです。

日本語 TA クラスでは、現地の学生の方約 5 名と日本語の学習をしました。主にクラスでは、生徒の方とペアを組んで、日本語発音の練習や宿題の添削をします。中間、期末テストがある場合は、テスト監督をしました。一度も日本語教育等のクラスを取ったことがありませんでしたが、無事 TA を務めることができました。このクラスの単位は 3 単位ではなく、2 単位だったので注意してください。

◆ 授業、レポート、定期試験

授業のスタイルは先生によりますが、基本はプリント配布がありません。なので、先生の話聞いて、自分自身でメモを取らなくてははいけません。また、クラス内で問題を解いたり、答え合わせをしたりする授業は ESL クラス以外にありませんでした。事前に教科書や掲示板にある記事を読んで、その内容についてクラスで説明されたり、ディスカッションをしたりします。クラスでの説明が分からない時は、友人に聞いたり先生に尋ねたりしていました。レポートは 2～3 ページの量のものを、2 週間に 1 度ほど提出している時がありました。最初は戸惑い、レポートの書き方が分からなかったです。なので、Writing Center や Peer mentor を利用し、添削、アドバイスをしてもらっていました。文法等で間違っている、先生方も留学生と分かっている、大きく点数を引かれることはないと思います。先生の要望（レポートのスタイル、ページ数、テーマ）を踏まえて書いていけば、おそらく問題はないように感じました。不安もあると思いますが、本当に大変な時は、学校側が行っているサポートに頼ってみることも 1 つの手かなと思います。

定期試験ですが、これもそれ程心配する必要はないかと思います。ESL、Art (History of Western Art II: Renaissance to Modern, Arts of Asia: India, China, Japan) の 2 クラスではテストがありました。正直、試験が心配だったので、毎日授業内容の復習をし、Art の 2 クラスはテスト 2 週間前から本格的に勉強し始めました。この 2 クラスは先生が同じ

だったので、試験日も近かったからです。もし、同じ先生の授業を受ける場合、先生に試験日を変更してもらえるかもしれないので、相談してみても良いかもしれません。試験は授業内容をきちんと復習していれば、大丈夫だと思います。

⑦ クラブ、課外活動、ボランティア活動

課外活動、ボランティア活動には参加していませんでした。クラブには7個ほど入っていましたが、参加したのはクラフトクラブと日本のアニメクラブへそれぞれ一度のみでした。クラブへ行くと、どこでも席を選べ、好きな時間に帰ることができます。活動時間も夜の8時ぐらいからなので、クラスの心配はいらないです。予約や誰かに参加の意思を伝える必要もないです。気軽に参加できます。

⑧ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

現地では1年間 PEG というキャンパス内にある寮で、留学生のみの階に住んでいました。この寮は20歳以下の学生さんと住んでいました。しっかりした規則があったので、個人的に住みやすかったです。先生によると、寮が2018年の秋学期から変更されるということで、このPEG寮とは違う寮になると思います。私の住んでいた寮は、2人もしくは3人で1つの部屋でした。狭くはありませんでしたが、ルームメイトと話し合い家具の位置等を決めることをお勧めします。設備についてですが、トイレとシャワールームは同じ部屋でした。印象的にはプールにありそうな雰囲気がします。たまに、夏場と冬場ともにシャワールームのシャワーから冷水しか出ない日がありました。また、共同のキッチンがありました。PEG寮は1階にオーブン、電子レンジ、コンロのあるキッチンがあり、住んでいる4階には冷蔵庫、レンジ、流しがあるキッチンがありました。わざわざ1階に降りて、料理することはあまりなかったです。月曜日から金曜日の朝にハウスキーパーの方が来て、ごみの収集、掃除をしてくれていましたが、冬場に15匹ほどゴキブリがでました。ゴキブリにはかなり驚きましたが、他の寮よりは綺麗な寮でした。

食事は、朝、昼、晩共に食堂かカフェで食べていました。食堂では、パスタ、ハンバーガー、パン、シリアル等が食べられます。メニューは日替わりで、朝、昼、晩と利用できる時間がそれぞれ決まっています。もし、食堂に行く時間が無い時や食事に飽きた時は、キャンパス内のカフェに行っていました。毎回の食事は、カフェか食堂かを選ぶので、もともと入っているミールシステムへの追加代金は払わなくて良いです。先生曰このミールシステムに入らないという選択肢はないそうです。自動的にミールシステムに加入していることになります。個人的なアドバイスですが、風邪などを引いてしまった時は、日本から持ってきたお米を食べていました。

⑨ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は寮が閉まってしまうので、アメリカとカナダに旅行しました。初めての休暇である 10 月頃にある Fall Break と Thanks Giving Days では他の留学生と共に New York に行きました。約 1 か月ある Winter Break では、カルフォルニア、カナダ、オーランドへ行き、日本へ帰りました。この旅行のルートは全くお勧めしませんが、自分でカナダに友達に会う為飛行機に乗り、1 人でディズニーワールドへ行ったので満足はしました。日本へは、少し日本が恋しくなったので、あえてその気持ちを我慢せず帰国を選びました。Spring Break にもう一度オーランドへ行き、May Term 前にある休みには Washington D.C.へ行きました。留学終了後はそのまま日本へ直接帰りました。協定留学生は留学終了後、アメリカに 2 週間滞在できました。旅行好きの方は、この期間を利用していきたい場所に行っていきたいかもしれません。一番長い休みは Winter Break で他の休みは約 1 週間でした。

寮が閉まってしまうので、必然的に寮を出なくてははいけませんでした。ですが、毎回旅行のためにフライト、ホテルを予約するのはかなりお金がかかるので節約していました。例えば、フライトではなく近くの場所なら Mega Bus や Greyhound などのバスを使いました。また他にも Amtrak という長距離の電車も利用しました。バス、電車共に Washington D.C.に行くにしても 8 時間ほどかかりますが、値段は片道 15～40 ドルほどでした。また、ホテルではなくホステルの Airbnb を使いました。大体安いところで 1 日 30 ドルほどでした。ですが、予約する際は、ロケーションやオーナー、予約状況が安全かを必ずチェックすることをお勧めします。ルームメイトは 1 人で Airbnb を利用していましたが、基本的に 1 人部屋ではなく、知らない人との共同部屋なので 1 人で宿泊することはお勧めしません。

⑩ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学期間中には特に、就職活動の取り組みはしていませんでした。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

現地の学生、留学生と一緒に過ごしたことが一番の思い出です。一緒にダウンタウンへ行ってご飯を食べたり、なかなかレポートが終わらなくてリビングや図書館で勉強したりしたことが印象的です。留学するという同じ状況にいる者同士の団結力や留学中同じ悩みを共有できる存在を見つけることができました。そんな些細な毎日の生活が楽しくて、勉強は大変でしたが、楽しかった思い出の方が強いです。今でもアメリカでできた友人とは連絡を取り続けています。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

正直秋学期よりも春学期の授業、課題の方がつらかったです。秋学期には留学生どうしのク

ラスが 2 クラスありますが、春学期には現地の生徒の方と同じクラスしかありません。すべてのクラスで、現地の生徒と同じ量の課題をこなさなくてはいけなくなります。また、私の場合は秋学期には留学生が 15 人ほどいたのに、春学期には 10 人を切りました。気持ち的にも、春学期の方が寂しくなり、仲の良かった友人も帰ってしまい、心が折れそうになりました。その時が一番つらかったです。でも、つらかった分、後になって返ってくると言い聞かせ、最後まで頑張れました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

はっきりと自分の意見を言わないと、相手に全く伝わらない点に驚きました。アジア圏の留学生の間では何となく、雰囲気で察するという文化がありました。ですが、やはり何も言わずに、自分の気持ちを察してもらえるかどうかは難しかったです。留学当初、ルームメイトに上手く自分の気持ちを伝えられず、関係は上手く行っていませんでした。後になって気づいたことですが、ルームメイトに私の気持ちは全く伝わっておらず、勘違いを生んでいました。誤解を防ぐためにも、相手を傷つけるかもしれないと考えすぎず、ことが大きくなる前に自分の気持ちを伝える方がいいと思います。他に授業内でも、自分の意見を上手く言うことで、他の生徒の方との距離も縮めることができるように感じました。留学を通して、上手く英語を話せなくても、自分の気持ちを伝えるようとすることで、相手に心を開こうとしていると思ってもらえると学びました。なかなか自分の意志を提示することは難しいですが、一度挑戦してみると、相手と英語で話しやすくなり良い関係が築けると思います。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学の規模が数千人と小規模だったために、先生や生徒の方々との距離がかなり近く、過ごしやすかったです。1 クラス、約 15～20 人しかいないので、ディスカッションがしやすかったです。もし、授業内で分からないことがあれば、先生に質問をすればいつでも助けてもらえました。先生は生徒に教科書の文字を“覚える”のではなく、頭の中で整理して“分かる”ことを望んでいます。なので、質問すると“分かる”まで、一生懸命教えてくれます。そして、Writing Center や Peer Mentor などの学生サポートが手厚いところも魅力的でした。

勉強面だけでなく、ほぼ毎週何かのイベントがあることも良かったです。例えば、Junior Dad's Party、Signature Ball、Holi Festival などのイベントがありました。勉強で疲れている時も、このイベントに参加して、ストレス発散していました。他にも、毎週 2 回、Zumba クラスがありました。このクラスでは先生の見本を見ながらひたすら真似をしてダンスを

します。全くダンスを踊れませんが、楽しんで取り組むことができました。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持って行った方が良いです。図書館にもパソコンはありますが、使える時間が決まっていますし、レポートの提出、オンラインテストがあるので、持って行くことを強くお勧めします。また日本食や日用品はできるだけ多く持って行ったほうが良いと思います。また、食堂が開いていない時もありますし、現地で日本食は少し高いです。個人的に、アメリカの食事がつらい時があったので、日本食を持って行って良かったと思っています。また、日本食を食べてみたい生徒の方もいるので、一緒に楽しめるとと思います。他には、半年に一度、国際交流会のようなものが行われます。その時に、日本の文化を現地の生徒の方に体験してもらいます。なので、交流会で使えるような日本のお菓子、ゲームなどがあると良いかなと思います。日本からのお土産（100 円ストアで買えるもの）も活用出来ました。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

語学力はかなり向上したと感じています。帰国後も国際課の留学生交流会に参加し、留学生の友人ができました。今までも、交流会には参加していましたが、自ら話しかけることはできませんでした。ですが、留学を通して、自分らしい英語でのコミュニケーションを発見しました。そして、プレッシャーやストレスを感じず、留学生と京都や大阪に遊びに行くようになりました。今は、特に Listening、Speaking 力が上がったと思います。日常会話ではそれほど支障はありません。また、帰国後 1 か月以内に英検準一級を受け、英検バンド+3（合格点から何点上で合格したか分かる点数）で一次試験、二次試験共に合格しました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学するにあたって、IELTS や TOEFL などの対策で忙しくなったり、不安になったりすることもあると思います。私も次のテストまでに何点まで上げなければと焦ってしまいうこともありました。ですが、一生懸命努力すれば、その分返ってくると信じて勉強しました。そして、第一志望の留学先に留学することができました。皆さんもきっと、自分自身を信じていれば、良い結果が得られると思います。応援しています。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

もう 3 回生なので、インターンへ行き、具体的に将来の夢を考えなくてはいけない時期になりました。ですが、正直まだ将来の夢はぼんやりしたままです。留学した経験を活かして、英語を使える職場に就職したいという気持ちはあります。また、留学先や日本で出会った外

国に住む友人との交流は、これから先も続けていきたいと思っています。焦らず、自分の好きなことを将来の夢として見つけていこうとも考えています。

V. 写真



この建物は大学内の食堂です。結構急な丘の上に立っています。食堂は朝、昼、晩に利用することが可能です。生徒カード(Student I.D.)を持って行き、食堂に入ります。中は、広々としていて、ダンスパーティーやクリスマスのイベントなどに使われることもあります。食事の内容は、アジア系のご飯、グリルご飯、パン、シリアル、そしてベジタリアン用の食事が 있습니다。毎日違った種類のご飯が用意されていますが、少し飽きることもありました。



この日が初めて参加した、交流会のようなイベントでした。人生で初めて音楽にのりながら、みんなとダンスしました。新鮮な経験でした。写真に写っているのは、留学生と、留学生をサポートしてくれるアンバサダーたちです。みんなが優しくて、心配事があっても。すぐに忘れられました。大切な仲間です。



食堂で行われるパーティーの 1 つ、**Signature Ball** でした。この日はみんなでドレスアップして、ダンスパーティーへ行きました。仮面を作ったほうがパーティーの雰囲気ができるのではないかと、仮面作りにも挑戦しました。パーティーでは、ご飯を食べたり、カジノのゲームを行ったりしました。何もかも初心者の私でしたが、楽しんでイベントに参加しました。



Horseback Riding のクラスでの写真です。右が台湾人、真ん中がルームメイトの韓国人、一番左が私です。春学期の時の写真ですが、雪と雨が続きなかなかクラスが無い日が多かったのですが、最後には晴れました。馬たちはとても自由でたまに言うことを聞いてくれず、写真のように草を食べ続けていました。ですが、かわいいなと思って癒されていました。



最後に、この写真に写っているのが、春学期を過ごした留学生たちです。春休みにそれぞれがディズニーワールドに行きたいとなり、一緒に行くことになりました。正直、旅行に行くという前日に熱がでてしまい、ディズニーワールド初日はしんどい思いで一杯一杯でした。ですが、留学生6人で旅行の計画を立てるのは物凄く大変でしたが、今となっては良い思い出になりました。長期休暇を上手く利用して、どこか旅行してみてください。

M. K. 英語英文学科・2 年次

I. 留学レポート

① 協定留学を目指した理由

入学した時から留学には少し興味を持っていました。同じクラスの留学を目指す友達に触発され、新しいことに挑戦したいという思いから、1 年の春学期には積極的に留学説明会などに参加するようになりました。

② 留学を目指してから出願までの英語学習方法

IELTS の公式の過去問 2 冊を徹底的に解き、問題形式に慣れるようにしました。スピーキング対策として、レアジョブ（オンライン英会話）に登録してなるべく毎日英語を話すようにしました。

③ 留学決定から出発までの準備期間

洋楽を聞いたり、洋画を見るようにして英語に慣れるようにしました。日本の文化について聞かれても困らないように冊子を自分で作りました。手続きに関しては、すべて早めに済ましておく方がいいです。注射と健康診断は同じ病院で受けることをお勧めします。アメリカの病院は何かと値段が高いため、歯や気になるところは日本であらかじめ治療しとくと思います。

④ 現地到着後

シャーロットビル空港から MBU の教授が車で学校まで送ってくれました。オリエンテーションは 1 週間ありました。そこで、国際課の先生やアンバサダーという留学生のお世話をしてくれる現地生が丁寧に手続きの方法などを教えてくれます。

⑤ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学は田舎の自然豊かなところに位置しています。人も少なく、とてもピースフルです。しかし、少し歩いたところには小さいですがダウンタウンがあり、可愛いお店やレストランがいくつかあります。日用品は現地の友達などに車で 15 分ほどのウォールマートに連れて行ってもらって買っていました。大学のキャンパスは比較的小さいです。体育館のようなフィジカルアクティビティーセンターが少しメインキャンパスから遠くに位置しています。

◆ 履修科目

科目一覧の中から自分が興味のあるものを選び、アドバイザーの先生と相談しながら決めていきます。

* 秋学期

• **COMM100 Public Speaking**

留学生はこの授業を受けるように勧められます。大きいスピーチが3回あり大変でしたが、そのおかげで英語でプレゼンすることに自信がついたと思います。留学生同士で助け合ったのもいい思い出です。

• **ENG103 English as a Second language**

留学生はみんな受ける授業です。英語の文法やリサーチペーパーの書き方を主に学びました。

• **INT130 Introduction to American Culture**

この授業も留学生みんなで行きました。Field trip にみんなで行ったり、簡単なスピーチをしたりと、楽しんで受けられる授業でした。

• **ANTH120 Cultural Anthropology**

文化人類学の授業です。課題やプレゼン、テストは難しかったですが友達が助けてくれましたし、教授も優しい人でした。TA の人も気にかけてくれました。

• **PHE140 Beginning Yoga**

リラックスできる授業でした。2回ほどペーパーがありましたが、難しくありませんでした。

*** 春学期**

• **ARTH102 Western Art: Renaissance to Modern**

絵画の時代や歴史的背景を学ぶ授業でした。内容も興味深かったですし、課題として1つ作品を作ったのも新鮮で楽しかったです。

• **BUAD200 Management Principle**

少人数のクラスで、ディスカッションがメインの授業でした。クラスがとてもアットホームな雰囲気です。留学生の意見もよく聞いてくれました。経営者やリーダーになる人になる能力などを主に学びました。

• **BUAD250 Female Executive**

この授業は女性の働き方や、その問題について学びます。リーディング課題について毎回ディスカッション形式で進めていくのですが、アメリカと日本の違いを知れたり、自分の長所や短所を話し合ったり楽しい授業でした。

• **POLS111 Comparative Politics**

比較政治学の授業です。イギリス、ロシア、日本の政治を主に学びました。日本を学ぶときはよく質問されましたが、答えることができず、私の知識の無さに落ち込むこともありました。しかし、銃規制や移民問題など今まで学んだことのないことをアメリカの地で学べたということがいい経験だったと思います。

・ PHE139D Hip Hop Dance

この授業はただただ楽しかったです。先生がとてもパワフルだし、生徒も陽気でみんなで踊ることが楽しかったです。

・ JPNS202 Japanese Language

日本語の中級クラスの助手をしました。日本語を教えることの難しさを感じました。最後のプレゼンでは現代語と観光地を教えました。みんなにに興味をもってくれました。

* メイターム

・ INT150 Permeable Borders

大学近くの Boys&Girls のセンター内にその子供たちと一緒に 1 つの壁画を作りました。ペーパーとプレゼンが多くて大変でしたが、子供たちとクラスメートと先生がまるで 1 つの家族みたいだったのでとても楽しかったし取ってよかった授業です。

◆ 授業、レポート、定期試験

初めの方は正直、授業はついていくのが大変でした。しかし、周りの友達が助けてくれますし、英語がきちんと聞き取れるようになると楽しくなります。レポートや課題の量は教授によって変わるので、シラバスをよく見るといいと思います。教授に言えば、試験の時に電子辞書を使わせてもらえたり、他の生徒とは別の場所で受けることができます。

⑥ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブはコスモスという国際クラブに入っていました。折り紙をみんなで折ったり、インターナショナルフェスティバルでは日本代表として料理や遊びを提供したのはいい思い出です。生徒向けに無料でズンバを週 2 で放課後にやっていたので、よく参加しました。勉強や辛いことからリフレッシュできる楽しい時間でした。

⑦ 現地での住まい（語学研修期間、正規科目履修期間）について

Peg ドームの 4 階で暮らしていました。秋学期は日本人、春学期は台湾人のルームメートでした。4 階のリビングで留学生で集まって勉強したり、話したりしました。部屋は綺麗で快適に過ごせましたが、時々シャワーが水しか出なかった時は辛かったです。寮から学校（主に座学の建物）までは歩いて 3 分くらいでした。食事は食堂とカフェがあります。カフェのサンドイッチが美味しかったので、よくカフェに行きましたが、食堂もそんなにまずいことはありません。

⑧ 長期休暇の過ごし方

学校が始まって、初めての長期休暇である秋休みはニューヨークに行きました。Thanks giving は現地の友達の家泊まらせてもらいました。1 か月の長い冬休みは、日本人の先輩に紹介してもらったサンフランシスコにあるホステルで、2 週間ボランティアをしまし

た。ボランティアをする代わりに宿泊代と朝食代が無料だったので金銭的に助かりました。そのあとはグランドキャニオンやロサンゼルス、ラスベガスなど西部を堪能しました。春休みはフロリダのマイアミとディズニーに行きました。長期休暇はどれも、留学生仲間と最高の思い出を作ったり、新しい人たちと出会ったりなど夢のような時間でした。早めに旅行計画を立てて全力で楽しんでください。

⑨ 留学期間中の就職活動の取り組み

Management Principle の授業で履歴書などの就活に関わることも学びました。そのついでに、マイナビのアカウントを作ったくらいです。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

新しい国籍の人たちとたくさん出会って、その人達とお互いの文化について英語で紹介しあったり話したこと。アメリカでしか学べないようなことを授業で学んで、それを友達と議論したこと。いろいろな地に行けたこと。全てが楽しい思い出です。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

初めの頃は現地の子の英語が聞き取れず、話しかけてくれるのに、うまく返事ができなかったことは辛かったです。あとは、人間関係に悩まされた時期もありました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

How are you doing? などの挨拶をすれ違うたびに言われたり、くしゃみを誰かがするとテスト中であっても周りの子が Bless you と言ったり、可愛い洋服を着てたら I like your skirt と言ってくれるなどたくさんの気づきがありました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

良かった点は大学が留学生に対して手厚いところです。留学生に対して 1 人ずつ現地の生徒がアンバサダーとしてついてくれるし、conversation partner もいるし、フレンドシップファミリーといっているところなどに連れて行ってくれる家族もいます。大学が小さいので全ての授業が少人数です。悪かった点は、春学期に取りたいと考えていた授業があまりなかったことです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは持っていくという選択しかないような気がするほど毎日使いました。日本食は大学のご飯が飽きてきた時にいると思います。あとは、腹痛の薬や風邪薬は役に立ちます。

③ 語学力の向上等、留学の成果、留学前と後で変わったこと

友達やフレンドシップファミリーから英語が上達したねと言われました。点数でいうと TOEIC は留学前の点数より 250 点ほど上がりました。自分の意見を周りの目を気にせずに言えるようにもなったかなと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学したいなと考えるなら絶対にすべきだと思います。自分を見つめ直せますし、いろいろな新たなことに挑むことができます。なにより、素晴らしい友達に出会えます。ぜひ IELTS を攻略して点数取って wonderful な留学に行ってください。

IV. 将来の目標

① 今後の進路、将来の目標・夢

英語を生かせる仕事に就職したいですし、これからも海外の人と関わり続けたいと思います。いつでも、今が一番楽しいと思える生き方をしたいです。

V. 写真



ボランティアをしたホステルで、みんなで寿司パーティーをした時の写真です。一番右にいる日本好きのトルコ人が主催してくれました。いろんな人が寿司を beautiful だと言ってくれました。



日本語中級の最後のクラスです。私が作ったビデオで3人の生徒が泣いてくれて、寂しい気持ちになりましたが、最後はみんな笑顔で終わりました。



Permeable Borders のクラスです。右の子は私の conversation partner でプレゼンや子供達との関わり方に悩んでいた時などに助けてくれました。左の子は卒業アルバムに私の名前を書いてほしいと頼んできて、日本語で書くととても喜んでくれて一緒に写真を撮りました。